

お侍の御政事一々
先づ月夜に由るる日
浦邊に海鳥の鳴る
を待つておぼろしく
始まらばおのれ
花の露の匂いも
おぼろしく

和歌
恋情
松風
山雨
松二

馬本庵



A5
6590
82

お侍の御政事一々
先づ月夜に由るる日
浦邊に海鳥の鳴る
を待つておぼろしく
始まらばおのれ
花の露の匂いも
おぼろしく



吹く花をよめる風のよる
目依

昔よしのめし坂田の石
目依

意地深の茶許は誰か
茶石

管財くさく物のきつる
芥水

旅あつた松本くさつて
神化

廣き信くさく
花雪

女よのたのめと懐く月の六

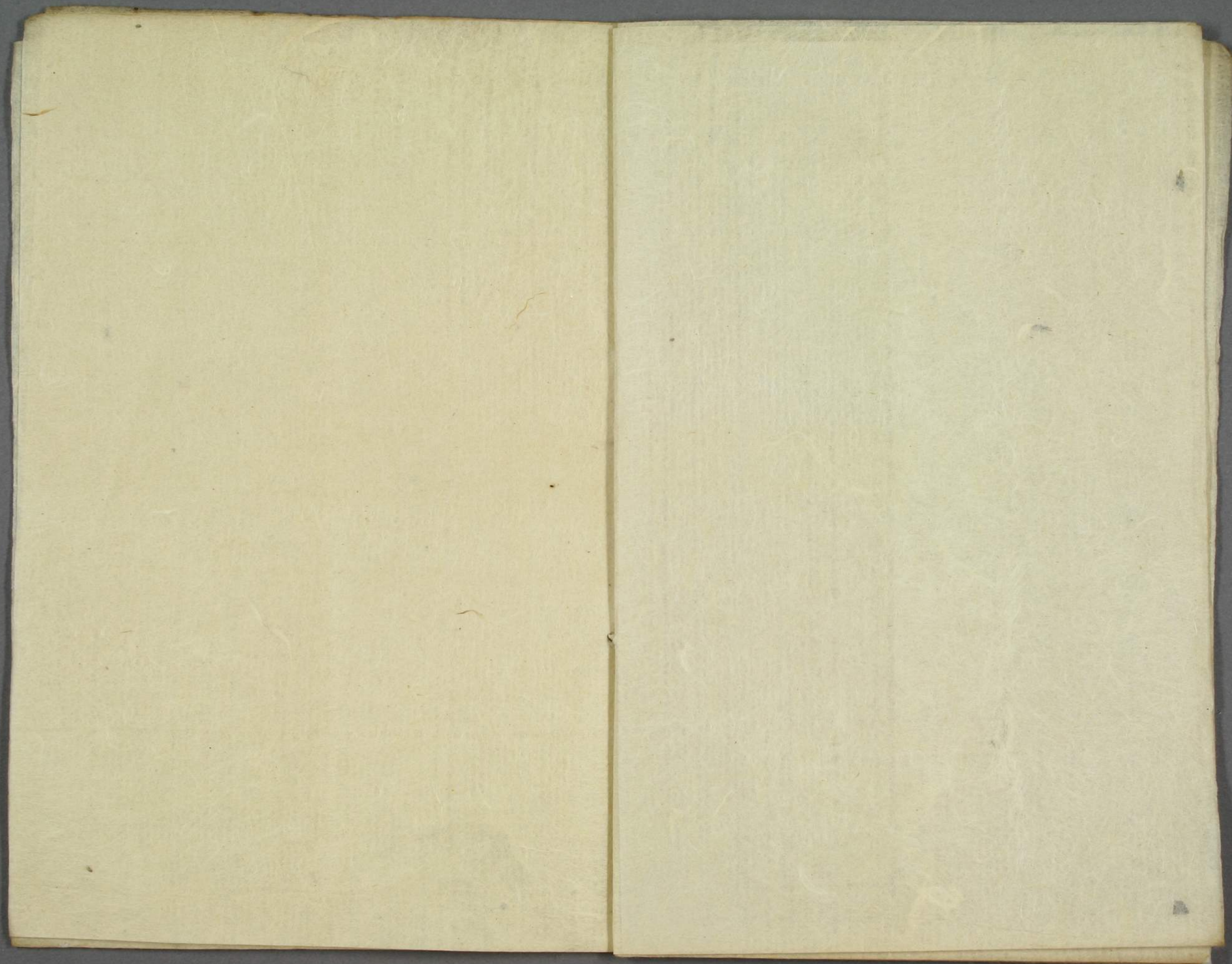
捨の妻の政多るに
隠計

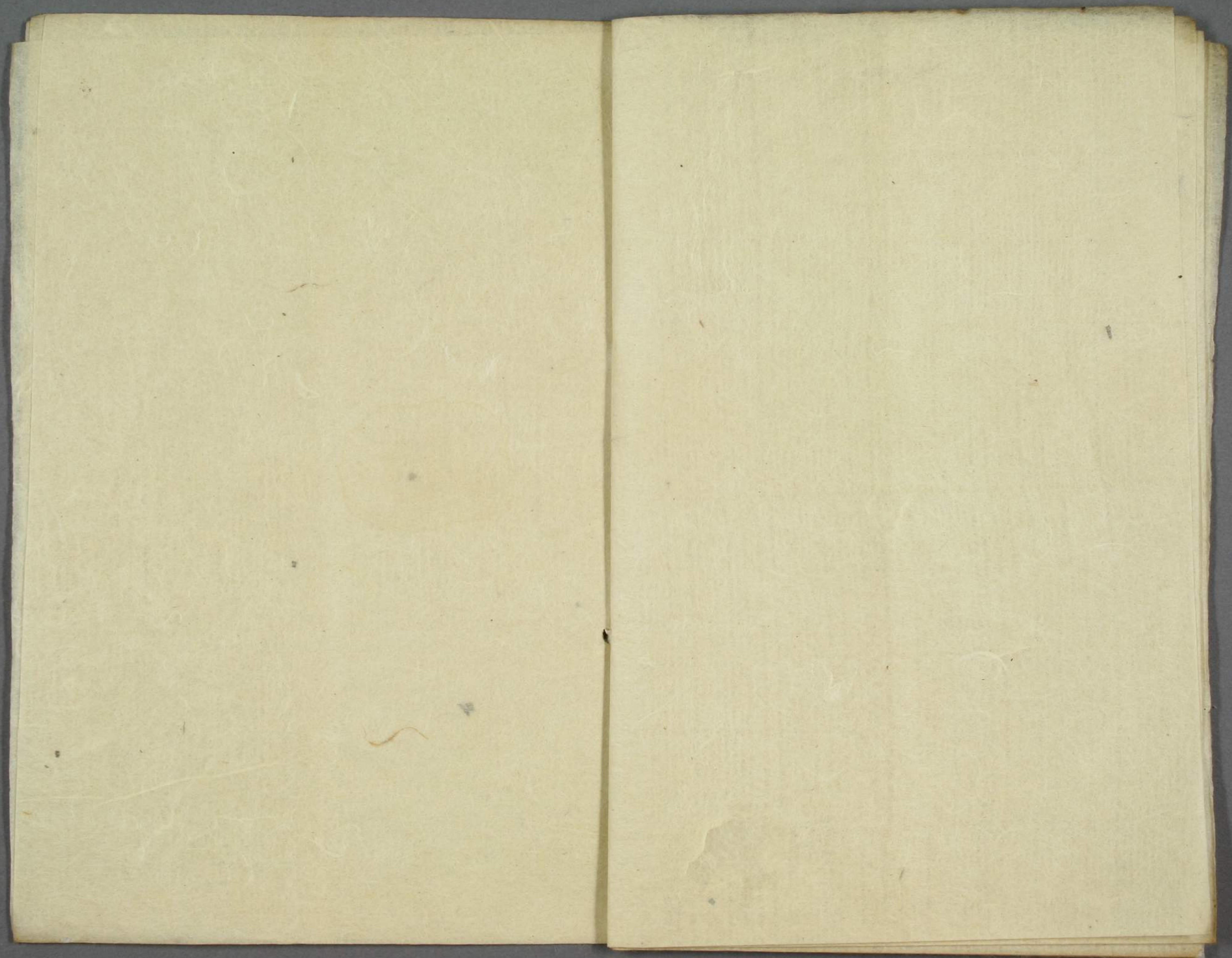
うそ寝くお公の馬の鳴て

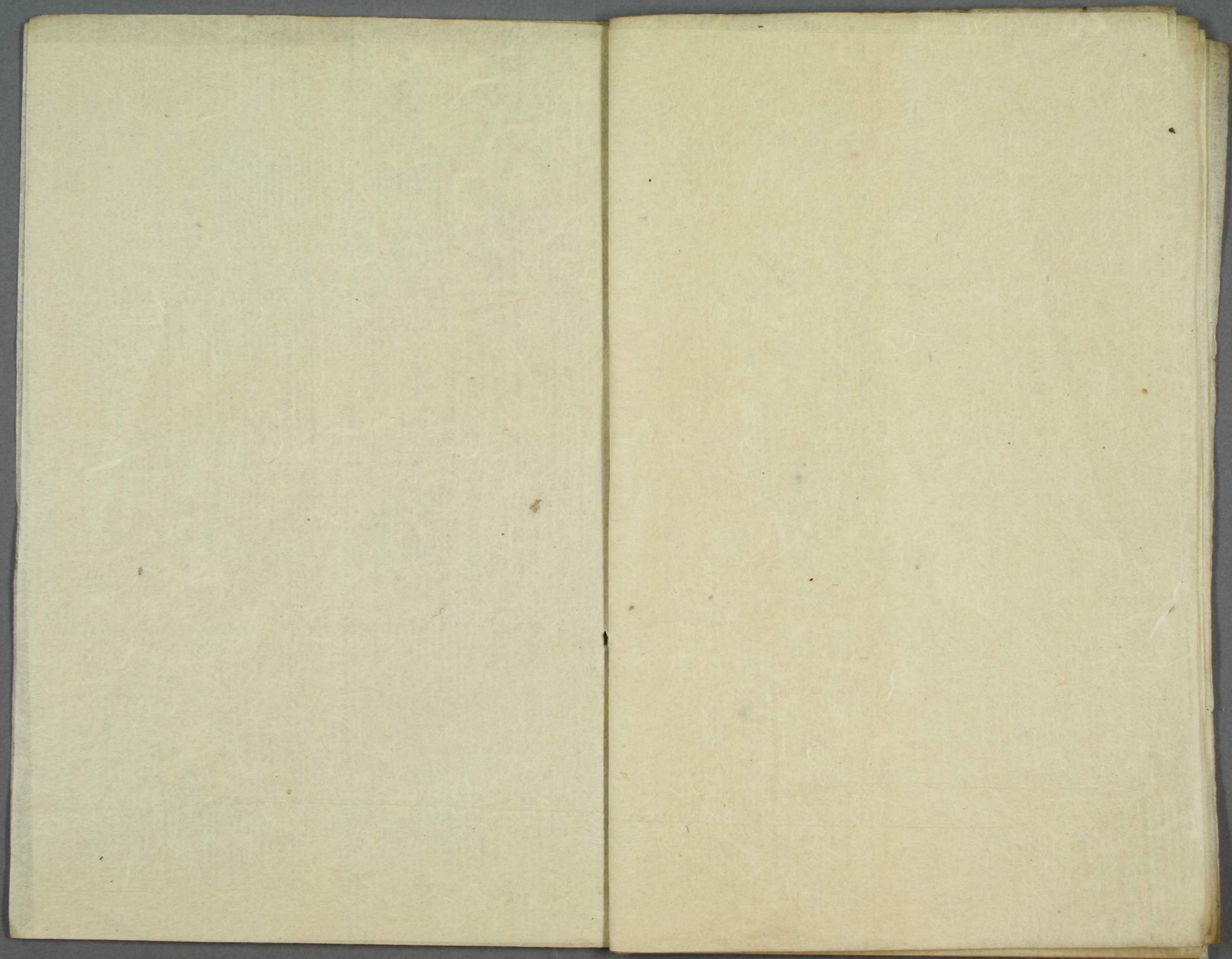
海流く降る梁の馬小家

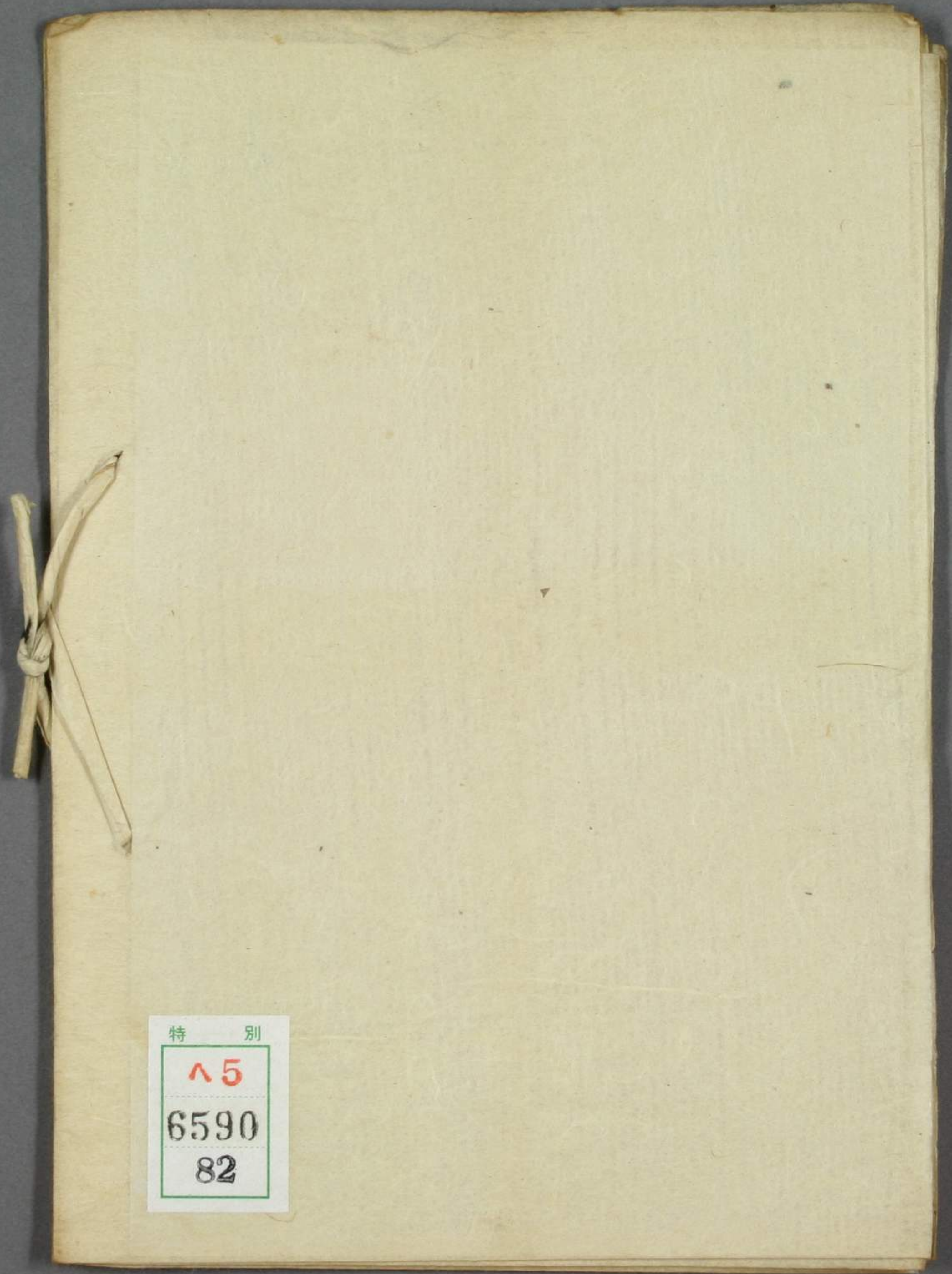
あまの春のひ子に乃松馬

空にさくさく
鏡の薪









特 別
A5
6590
82